

伏見革新懇

発行
平和・民主・革新をめざす
伏見の会
発行責任者 家野貞夫

〒612-8054
京都市伏見区御堂前町617-1
山京桃山ビル4F
京都南法律事務所内
TEL 075-604-2133 (溝江)

2018年は、国民のたたかい・3000万署名や国会野党共闘によって、通常国会での改憲発議を阻止、沖縄県知事選での圧勝等々、安倍政治を大きく追い詰めてきました。まもなく迎える2019年。市民と野党の本気の共闘を発展させ、統一地方選挙、とりわけ参院選で改憲もろとも安倍政権を退場に追い込む歴史的な年にしましょう。

現代日本の問題に正面から切り込み、次つぎと話題の書を世に問う白井聡さんのご講演、乞うご期待です。

伏見革新懇にとっても、2019年は活動再開以来10年目、2020年は結成40年目です。革新懇運動のいっそうの飛躍をめざします。12・2伏見革新懇・講演会&総会の成功へみなさんのご参加、ご協力を訴えます。

2018伏見革新懇 講演会&総会

戦後「国体」と決別し、歴史の転換を

講演 白井 聡 さん
政治学者・京都精華大学

12月2日(日)

呉竹文化センター-創造活動室

第1部 講演会

13時45分～15時20分

入場無料 どなたでも参加できます

第2部 伏見革新懇総会

15時45分～16時45分



撮影：梅谷秀司

【投稿】

忿怒の形相で 辺野古ブルーを思う

田中敏博



「芭蕉布」の歌詞の出だしは「海の青さに空の青」でした。沖縄の空の青さは深く、黒いように青いというのが私の印象です。この空の青さと得も言われぬほど美しい沖縄の青の海。辺野古大浦湾のブルーをみたら誰もが、これを埋め立てるなんて信じられないと思うでしょう。沖縄の海は外観もそうだが海の中がまたスゴイ。色とりどりのサンゴ、色とりどりの魚、そして何千何万尾と群れをなして泳ぐ魚たち。

この地球史の悠久さに思いを馳せたくなる大浦湾の埋め立てにアベ政権はまた着手した。私人を装って沖縄防衛局は、県の埋立承認撤回命令を、行政不服審査法という法の主旨を捻じ曲げて捻じ曲げて、これ以上どうにもならないくらいひん曲げて、審査請求・執行停止を政権身内の国交相に申し立てた。待ってましたとばかり公明党国交相は執行停止を即決定した。それなら私人が外国軍隊のために公有水面を埋立てる構図はどうなる？

異国の軍隊のために、それもその異国の軍隊に上げ膳据え膳、貢物のように、自国の民衆、われわれ中小零細企業から搾り取った血税で、基地を差し出すという。しかも200年耐久だと？フザケテル！戦後73年の月日を足せばほとんど300年ではないか。300年？徳川幕藩体制だって265年、それ以上ではないか。対米従属300年だと？忿怒で悶絶しそう。仏像になりそう。

国家主権と国民主権、国家と国民の利益、どちらが上でどちらが下とか言う以前、この両方が異国のためにないがしろにされている日本の資本主義体制とはいったいななもの。戦後処理の領土不拡大のカイロ宣言、ポツダ

ム宣言を無視し、いまだに異国軍隊に占領を続けさせる、地球上稀有なアベ自公政権。いまは冊封時代だろうか。日米同盟という目くらましにも注意が必要だ。これも私から言わせればおかしい。同盟でも何でもなし。主従の関係だ。アメリカとドイツ、イタリアなどの地位協定と日本のそれを比較すれば一目瞭然だ。

物事には論理と倫理というものがある。論と倫、ゴン偏とニン偏のちがいがあがるが隣の命が一緒であることを忘れてはならない。菅官房長官は「日本は法治国家」と口癖のように理屈を言うが、倫理と言うものを忘れている。人として忘れてならないものがある。企業倫理、医療における倫理の重要性が言われて久しい。ドイツ脱原発の方向は倫理委員会が打ち出したものだった。翁長知事はしばしば不条理という言葉を使った。まさに倫理に悖ることが辺野古で横行している。

(たなか としひろ / 自営業・伏見革新懇世話人)

【写真】11月1日・沖縄連帯伏見の会と伏見革新懇がよびかけた伏見緊急抗議行動



【全国革新懇の3つの共同目標】

- ①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

核兵器廃絶も夢ではない！ ～大きく広がる世界の医師の運動～

三宅成恒



昨年（2017年）7月の国連における「核兵器禁止条約」の採択以来、私たち反核医師の会の活動も慌ただしくなってきました。9月に英国のヨーク市で第22回核戦争防止国際医師会議（IPPNW）世界大会が開催され、条約採択に至る経過が論議の主題となりました。帰国すると10月にICANのノーベル平和賞受賞の朗報が飛び込みました。

これまでは反核運動というと、言わば「左がかった」一部の人がやる特殊な運動とみられていたのが、市民権を与えられ、私たちの側からすれば、運動に弾みがつく嬉しい出来事となりました。事実、世界を見渡すと、医学・医療界は、IPPNW以外にも、世界医師会議（WMA）、国際赤十字（ICRP）、赤新月運動、国際看護師協会、国際公衆衛生機関など世界中の多くの医療保険団体が核兵器廃絶決議を挙げています。これらの運動が、IPPNWの運動を盛り立て、また禁止条約の採択を後押ししてきました。昨年10月に横倉義武日本医師会長が10月に世界医師会長に就任される直前にIPPNW世界大会に参加され、世界の医師の前で、決意を述べられたことと無縁ではないと思います。もう既に、日本医師会（JMA）は、2009年に核兵器廃絶決議を挙げています。

さらに今年6月に北朝鮮とアメリカの首脳の間、非核化と北朝鮮の体制保障のための対話が始まったというニュースが飛び込みました。世界の圧倒的な市民が望む「国の安全は軍備によってではな

く国と国の信頼構築、話し合いによって安全保障を築く」方向へ舵を切ったことに明るい未来が開けてきたと言えるでしょう。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

今年の9月には、モンゴルで開催されたIPPNW北アジア地域会議に参加しました。モンゴルは旧ソ連崩壊までは、ソ連と中国という二つの核保有国に挟まれ、小国としての辛酸をなめていましたが、そのくび木から解かれると、一国非核兵器地帯を宣言しました。私も、「広島原爆投下直後の京都の医師たちの救援と調査の活動」を主題にして発表資料を作成し参加し、約20分間英語でスピーチしました（写真）。

直近では、11月の3日、4日と長崎で開催された第29回反核医師の集い（JPPNWとの共催）に参加しました。これまで述べてきた核廃絶運動の盛り上がりを反映して、充実した被爆地での大会となりました。

究極の目標である核兵器廃絶を達成するには、当面の目標である禁止条約を批准しなければなりません。そのためにも国内外の賛同者を募る必要があります。私たち医師には、医師層の核兵器禁止条約に賛同する多数派形成という課題が目の前に横たわっています。

（みやけ しげのぶ / 京都市城南診療所・
京都反核医師の会代表・伏見革新懇代表世話人）

